

北京消息第27号

新潟市北京事務所

中国北京市東城区建国門内大街 18 号恒基
中心 1-704 号室
TEL : +86-10-6517-2460/3340
<http://city.niigata.org.cn/> 5月31日発行

報告1 4.18～19日「IT&CM China 日本ブース」に出展

4月18日から19日まで上海でMICE（※）の専門見本市である「Incentive Travel & Convention Meeting China」（IT&CM China）が開催され、新潟市もJAPANブースに出展しました。

MICEと一般観光旅行の違う点の一つは、MICEマーケットにおける顧客の多くが企業であるため、観光地としての魅力以外に、何か特別な視察や体験ができるソフトの充実と、研修やセミナー、会議ができるハードウェアの充実が求められることです。

今回商談した中で、いくつかの中国系旅行会社が、新潟市が発展した都市機能がある一方で少し郊外へ行くと豊かな田畑が広がる田園都市である点に興味を示し、何か農業をテーマにした視察旅行ができないかきいてきました。

中国は沿海部は非常に発展していますが、実際はほとんどが農村で日本の農村に比べ遅れており、一部の農民は貧しい生活を送っています。都市部と農村部の経済的格差が広がる中国にとって、農村部を豊かにすることが喫緊の問題となっており、適度な都市機能と豊かな田園を兼ね備えた新潟市は彼らにとって多くのことが学べる魅力ある都市に見えるのかもしれませんが。この田園都市新潟の魅力をMICEマーケットでうまく活用すれば、中国と新潟との間でより多くの交流人口が望めるのではないのでしょうか。（笠原）

※MICEとは企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字をとった造語で、これらのイベントは多くの集客が見込めるため、世界各国の都市や観光関係企業が誘致に取り組んでいる。



桜の花の絵で彩られた華やかなJAPANブース。
見本市の中でもひと際目立っていました。



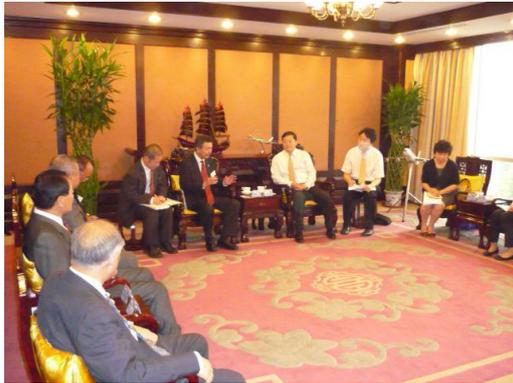
旅行社と商談する新潟市チーム。売り込む
だけでなく、情報収集もします。

報告2 中国各地との関係強化へ ～新潟市各界友好訪中団、上海など訪問～

篠田 昭市長を団長とする訪中団が5月7日から12日まで、上海、青島、済南、蘇州を訪れました。一行は日中友好議員連盟新潟市議会議員連盟などの議会関係者12人、経済界代表2人を含む22人からなり、訪問先の各都市で市政府など関係機関を訪問、地域間交流の促進等について意見を交換しました。

上海では中国東方航空を訪問、今年3月下旬から増便となった上海線について触れ、今後のデイリー化に向け、互いが協力し合うことになりました。その他、上海市人民対外友好協会や上海市旅遊局などの関係者と懇談し、農業・観光交流を含む地域間交流の促進について話し合いました。

続く、青島、済南、蘇州の各市でも市政府や人民代表大会(議会に相当)を表敬訪問し、それぞれの都市の現況に理解を深めるとともに、都市間交流をさらに進めるため具体的な交流を図っていくことになりました。(近藤)



中国東方航空市場販売部の責任者董波氏を訪問



青島市 姚堅副市長を訪問



蘇州市 山塘街水辺を活かしたまちづくりを見学

スタッフ便り

卒業間近、大学キャンパス内で古本バザーが開催

大学を卒業後、皆さんは、こんな場面をまだ覚えていますか。各専攻の教科書、参考書、問題集がずらりと並べていて、定価より 80%OFF ぐらい格安で売る一方、本の前に足を止める後輩にそれぞれの本がどの先生の何授業で使われるまで熱心に説明しているもうすぐ卒業する先輩たち。これは、卒業が間近になった毎年この時期、中国の各大学のキャンパス内で登場する古本バザーです。

5月下旬。卒業生にとって大学を離れるまであと一ヶ月ほどしか残っていません。会社の内定が決まった学生であれ、進学が決まった学生であれ、あるいは就職活動をまだやっている学生であれ、大多数の学生はいずれ何年間暮らしていた大学と日々同じ教室で授業を受けたクラスメートと別れ、それぞれの道を歩くことになります。特に近年、北京、上

海、広州みたいな大都市の戸籍の加入制限や生活コストの高騰に伴い、これらの都市の出身ではない大学生は卒業後、約 80%が大都市を離れて、出身地や生活コストが割りと低いところに行くそうです。したがって、大学での最後の一ヶ月に、寮、クラスひいては学年を単位として行われる数多くの送別会のほか、何年間もたまった本を片付けて全部搬出する手間や費用を省くために、今後の仕事に使わなさそうな本を安売りして後輩たちに活用してもらおう古本バザーが盛んになってきたのです。

古本をメインとするバザーですが、山のように積もった本の中に古いノートもあり、しかも大多数の古本より何倍以上の値段で販売されます。なぜかという、ノートには大学院入学試験や国家公務員採用試験に受かった先輩たちが時間と金を費やして各種スクールの授業を受けて真剣にとった貴重なメモが載っているからです。近年、大学だけではなく、全国大学統一入試（6月7～8日）の結果が発表された後、進学率の高い名門高校のキャンパスで一流大学の進学が決まった卒業生のノートもとても人気だそうです。

私は大学を卒業してから10年経ちましたが、10年前のこの時期、同級生の皆は強い日差しの下に傘を差しながら一生懸命同じことをやっていた様子が今もありありと思ひ浮かびます。ただし、セールスに全然向いていない私はキャンパスで本を売るのが恥ずかしくて参考書をただで後輩たちに配ったほか、教科書を全部ダンボールに入れて借りたアパートへ送ってしまいました。もう一度大学に入ってやり直すチャンスがあれば、堂々と古本バザーで商売できるかなと思い、北京郵電大学と中央民族大学へ思い出の旅をしたのです。（鞠）



古本バザー

撮影場所：北京郵電大学運動場（左）

中央民族大学キャンパス（右）



←文系の教科書：
「漢字文化」、「語言科学」、
「銀行会計」…

撮影場所：中央民族大学キャンパス内

↑
理工系の教科書：「光ファイバー通信」、
「模擬電子技術」、「電磁場と電磁波」…

英米留学ブームの最中にある中国、→
GRE、TOEFL、大学院入試英語の参考書
ばかり（撮影場所：北京郵電大学運動場）



経済減速でも強気

前号の繰り返しになるが、中国経済はリーマンショックの影響を受け、2008年と2009年の成長率はそれぞれ9.6%、9.2%と1桁に落ち込んだ。それまで2003年から2006年の平均成長率は11.0%、2007年は高成長率のピークで14.2%にまでになった。ところがリーマンショックの影響で、上述のように2008年と2009年は1桁に落ち込んだ。ところが回復は早く、2010年には10.4%と再び2ケタに回復させた。そして中国経済は「世界経済復活の機関車」と言われたのである。

ところが2011年以降、中国経済は再び下降線を描くことになる。この減速傾向は今も止まらない。2011年の4四半期の成長率は9.7%、9.5%、9.1%、8.9%と下降線をたどってきた。そして2012年の第1四半期の成長率は8.1%となり、やはり経済の減速傾向は止まっていない。

この3月に開かれた全国人民代表大会（全人代）では2012年の成長率を7.5%という、中国としては意外に低い数字に設定した。中国経済の現状からすると、成長率が8%を切ると、失業問題がクローズアップし、治安にも影響すると言われてきた。そのため、リーマンショックの影響が最も大きく出る2009年の成長率を「保8」（8%死守）と言ってきたのである。それがここにきて成長率を7.5%に設定したことは、政府がかなり危機感を持っているということである。このことを前提にして、2012年第1四半期の8.1%という数字をどう見ているのか、できるだけ多くの学者・専門家に聞いてみた。答えは3様であった。①まあこんなものだろうという意見。②意外に健闘したという意見。③予想より若干低かったという意見。この中で①と③が多数を占めた。これまで中国の成長率は、上半期より下半期の方が高くなる傾向であった。この傾向からみれば第1四半期が8.1%だと、通年では少なくとも8.0%はクリアできる。ただ現在はこれまでの状況と違う。

中国の政府関係者、学者・専門家が最も心配し、注視しているのはEUの金融・信用危機である。ギリシャだけならまだしも、スペイン、イタリアに飛び火し、万一フランスまでもおかしくなれば、深刻な状況となる。中国の高度成長をけん引してきた大きな要因の一つは輸出である。その輸出構造を見ると、貿易黒字の大半は対EU、対米で稼いでいる。対日貿易は赤字となっている（日本側の統計では日本の赤字）。EUの危機が続き、さらに深刻になったら、中国の輸出に対するダメージは計り知れなくなる。米国経済も上昇しそうでないという状況では、中国が危機感を抱くのは当然だ。このことは第1四半期の成長率8.1%が「予想より低かった」という意見と関係がある。EUの状況は短期的には改善されないだろうし、さらに深刻化するだろうと予測する人たちは、今後下半期にかけ、EUの悪影響はボディブローのように効いてきて、中国経済の足を引っ張ると予測する。従って、第1四半期が8.1%だと、通年では8%を割り込む可能性が大だと言う。

それでも中国政府の公式見解はなお強気である。ある政府関係者は「経済は確かに減速傾向が続いているが、これは想定内で、合理的かつ適度な成長の範囲にある」、「経済は減速の中で安定に向かい、引き続き比較的高い成長を維持するだろう」と述べた。もう少し詳しく、中国社会科学院金融研究所通貨理論・金融政策室の彭興韻主任は次のように述べ

ている。

「昨年の政府の比較的厳しいマクロコントロールで、不動産と固定資産投資が一定の影響を受け、金融引き締め措置も企業の資金借り入れコストを上げた。国際的には欧州債務危機、米国経済回復の遅れなどの影響で、貿易黒字が著しく減少した」。しかし今年目標達成は十分可能であり、「マイナス要因がマクロ経済に影響を与えているが、短期的に多くの要因が逆転することはなく、都市化プロセスが終わらなくても、内需改善の余地はある。また所得税率の見直しが消費需要の拡大につながり、また人口ボーナスもまだある」。

比較的楽観論者は、EUのマイナス影響は確かに大きいですが、政府の金融緩和、内需拡大、都市化推進などで、ある程度カバーできる。その結果、第2四半期には中国経済は底を打ち、下半期は徐々に上昇すると見ている。比較的悲観論者は、金融緩和などの政府の経済対策は確かに一定のプラス要因になるが、都市化にはかなり時間がかかり、今年1年に限れば、期待はできない。EUの状況は改善傾向より、深刻化していて、中国経済に与えるマイナス要因を軽視することはできないというものだ。

中国経済の成長問題に関しては、ここにきて顕著な傾向が表れてきた。それは東部地域（これまで高度成長をけん引してきた沿海ベルト地帯）の大幅な落ち込みと西部・中部地域（高度成長から取り残されてきた内陸部。逆に輸出や外資導入の落ち込みの影響をあまり受けない）の高度成長の兆しである。最近重慶問題がメディアを騒がせたが、昨年の成長率は16%という驚異的な数字だった。

さて、中国経済は困難な局面にあるが、北京市民の生活に大きなマイナスが出ているとは思えない。むしろ昨年のインフレで物価が上昇し（5-6%）、市民の不満がたまっていたが、ここにきて物価上昇率は3-4%に落ち着き、ひと息と言ったところである。賃金は依然として上昇している。今年以降最低賃金を毎年1.3%引き上げると、政府は公約した。全国的に見れば格差問題は深刻だが、北京市内の市場は賑わい、高級レストランはどこも満員だ。EU問題のマイナスは、今のところ市民生活には及んでいない。

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃（さいおんじ かずてる）氏

1944年生まれ

- 明治の元勳・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一（きんかず）氏（第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事）の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授

新職員紹介 1

笠原 能子 (Kasahara Noko) 副所長

みなさんこんにちは。4月より当事務所に赴任している笠原能子と申します。北京を初めて訪れたのは19年前になりますが、当時と比べ街は目覚ましく発展し、地下鉄も2路線しかなかったのが今は15路線に増え、路線図を片手に街を移動する毎日です。

私の好きな北京動物園も当時とすっかり変わってしまいました。昔はガランとしていた印象でしたが、今は水族館まであり、休日は大勢の観光客で賑わっています。多いのは人間だけではなく、動物の種類も多いですが、動物1種類につき飼育されている数自体も多く、いろいろな意味でかなり見応えがあります！（一部の動物は窮屈そうですが・・・）ちなみに、パンダはこちらでも大人気ですが、上野動物園のパンダの方が美男美女な気が

します。中国政府が特別に美男美女を送ってくれたのか、或いは上野動物園が丁重にお世話をしているのか・・・。

そんな現地ならではのいろいろな情報を新潟の皆さまにお届けして行きたいと思います！（笠原）

新職員紹介 2

李 春梅 (Li Chunmei) 職員

初めまして、李春梅と申します。この度5月から、新潟市北京事務所で働く事になりました。

日本とはご縁がありまして、2002年から日本に留学し、東京で仕事をしておりました。帰国しても自分の語学や日本での経験を生かして日中両国のために役立てる仕事をしていきたいと思っておりました。これからの仕事を通じて新潟のことをさらに学習し、より多くの中国の方々に新潟を知っていただけるよう頑張りたいと思います。

今年は日中国交正常化40周年です。中国国民の一人として、日本の大ファンとして今後も両国の更なる友情が深まるのを心からお祈りいたします。何卒よろしく願いいたします。（李）